



# 周囲で気づきたい

ぎゃくたい

## —子ども虐待防止にむけて—

企画：  
日本医師会

No. 351

指導：九州大学病院 子どものこころの診療部 特任教授 吉田 敬子

### 育児で揺れる母親の心

赤ちゃんの誕生は喜ばしいことですが、ノンストップの育児は、ときに母親のいら立ちや疲労感をつのらせます。またその心を周囲に打ち明けられずに、ひとりで抱え込んで、うまく解消することができずに虐待にいたってしまうこともあります。

### こんなサインがあったら…

追いつめられている母親は、笑顔が少なく、子どもに声をかけない、子どもの泣き声でイライラして声を荒げる、どなる、あるいは体を揺さぶったり、子どもの着替えや食事を与える場合にも叩いたりなど、手荒い育児になりがちです。子どもだけを家に残して衝動的に数時間出かけたりすることもあります。また、子どもの父親が育児に無関心だったり、夫婦げんかが多く、どなり声が聞こえてくる場合も要注意です。

虐待を受けている子どもは、表情に乏しく、母親や周囲の大人を警戒して近づかない、また逆によく知らない大人に過剰に甘えるなどの行為がみられます。爪や髪が汚れている、衣服でおおわれた部分に複数のあざや傷が絶えないなどが身体的な特徴です。

### 身近な周囲から

幼い子どもは周囲に助けを求めることができません。育児中の母親や子どもが出しているさまざまなサインや状況を身近な人々がよく把握することが、虐待防止につながります。地域の保健師による母子訪問などもありますが、親戚や身近な人が気づいてあげたいものです。

子どもの周囲で気になることがあったら、ぜひ近くの児童相談所に連絡してください。



◆待合室等に掲示し、患者さんにお見せください。